

---

# はれんちマンション（転一）

春野天使

---

## 注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

### 【小説名】

はれんちマンション（転一）

### 【Nコード】

N7064C

### 【作者名】

春野天使

### 【あらすじ】

雨月ハレルヤ、通称ハレは中学2年生の14歳の男の子。マンションの管理人をしている母親との二人暮らしをしていた。ところがある日、母親が家出をしてしまった！！一人残されたハレ。どうなるの？

はれんちマンション（転一）

(前書き)

第15弾の『起承転結』小説です。叶愛夢さん(起) 阿厨季夜さん(承一) 御谷朋さん(承二) 春野天使(転一) 月朱さん(転二) 七夜十歌さん(結)の順番で物語りは進んでいきます

はれんちマンション(転一)

「キヤー！ ハレ君のパンツってかわいい〜！」

……百円玉を数える僕の手がピタリと止まる。

「静香さん、何してるんですかー！」

いつの間にか静香さんは、勝手にベランダに出て、僕が干した洗濯物を一つ一つ吟味していた……。静香さんは、母さんがバーゲンで買って来たクマの模様のトランクスを手にとって見てる。

「やめてください！」

僕は慌ててベランダまで走り、クマのトランクスを奪い取る。

「こんなのはいてんのね〜」

静香さんは面白そうにククツと笑う。僕だってこんなパンツははきたくない！ けど、新しいパンツをわざわざ買うのも……パンツごときにお金を使う訳には。

「後で、アイロンがけてあげるね〜」

「しなくて良いです！ それより、早く帰ってください。仕事行かなくて良いんですか？」

静香さんはクラブで働いているはず。

「今日はお休みよ〜っていうか、昨日で辞めちゃった。だから、当分お休みね」

脳天気に笑う静香さんを見て、パンツを持つ手がワナワナと震えてきた。

「……明日からハローワークで仕事探してください。益々家賃の滞納増えますから」

「転職かぁ。今度は何しようかなあ〜」

静香さんは、胸の大きく開いたショッキングピンクのTシャツにヒョウ柄の超ミニスカのスタイル。

Tシャツからはみ出そうな巨乳を両腕でギュツと挟むような格好をして、上目使いに僕を見る。

「グラビアとかいいかも」

静香さん、ほ のあきのつもりだろうけど……かなり無理があった。静香さんってほ のあきより、年上かも……。

ピンポン！

良いタイミングでインターフォンが鳴った。今日は人がよく来る。僕はクマのパンツを部屋に放って、玄関に走る。

「はい、どなたですか？」

「……横溝正二よこみせいじです……」

地獄の底から響いて来るような、くぐもった低く暗い声。うちのマンションの住人の一人、自称推理小説作家の横溝さんだ。どうやら、横溝正二ってペンネームらしい……良いのか？ そんな名前でマンション契約して？

「……あの、どんな用件ですか？」

横溝さんが黙ったままだったんで、僕は聞き返す。

「家賃……払いに来ました……」

低い声で横溝さんは続ける。あっ、そうか、今日は家賃の支払い日か。家賃代振り込みにしたらしいのになあ。ま、銀行口座にお金が入ってる人って少ないから無理か……けど、一応ここマンションなんですけど。僕は、あれこれ考えながら、ドアを開ける。

「……」

ホテルに備え付けているような浴衣をだらしなく羽織った横溝さんが立っていた。金田一耕助を意識したボサボサの髪。虚ろな瞳をして薄笑いを浮かべている。そして、片手には出刃包丁が！ 包丁の先はまっすく僕に向けられていた！

「……あれ？」

横溝さんは、薄笑いをやめ、真顔になる。

「ノーリアクション？ 怖くないんですか？」

「横溝さん、包丁しまつて下さい……知らない人が見たら警察に通報されますよ」

僕は深くため息をついた。横溝さんは家賃を支払いに来る時、毎

月毎月何やら武装して来る。チエーンソーの時もあったし、斧の時もあったし、オモチャのピストルの時も……。そうやって僕の驚く顔を見て、小説を書く参考にするんだとか。そりゃ、初めて見た時はビックリするけどね。毎月毎月じゃあ……。

「ヤレヤレ、最近の若い人っていうのは無感動だからなあ」

横溝さんは、金田一探偵みたくポリポリと頭をかいた。『感動』の使い方間違ってますか？ ま、かなりの変わり者とは言え、横溝さんは毎月家賃を払ってくれからいいや。

「ありがとうございます」

横溝さんがどうやってお金を稼いでいるのか、不思議だけど、僕は家賃を受け取ってお礼を言った。

「あー！ 何やってるんですか！ 静香さん！」

ちよつと目を離れたスキに、静香さんは母さんが送りつけてきた段ボールを勝手に開けようとしていた。

「ハレ君、これなに？ こんなにあるんだから一個くらいちよつだいよ！」

「ダメです！」

僕は静香さんとこまで走って行って、静香さんが開けようとしていた段ボールを取り返す。結構重かった。

「ケチねえ。マンションの住人には優しくするもんよ」

「……これは、母さんの私物です。静香さんが思っているような良い物じゃないですから」

「母さんの私物……？ 何で晴子さんの荷物が段ボールで配達されてきたわけ？」

「いや……これには、深い訳があつて……」

顔中に興味津々の表情を浮かべて、静香さんはじつと僕を見つめる。

「うーん、もしかして、『お・と・こ』？ あの晴子さんに男が出来て家出しちゃたとか？」

静香さんは口を曲げてニヤリと笑った。スキャンダルなネタ大好

き静香さん……静香さんにバレたら話がもつとややこしくなりそう  
だ。

「違います！ そんなんじゃありません！」

僕はキツパリと自信たつぷりに否定した。けど、母さんの事情は  
百パーセント不明。

「じゃあ、どういう理由？」

畳みかけてくる静香さんに、僕の自信は早くも崩れそうになる。

「……」

ピンポーン！ 窮地に追い込まれた僕の耳に、またインターフォ  
ンの音！ 今日が家賃の支払日で良かった。

「はいー！」

僕は静香さんを逃れて、インターフォンまで走って行く。

「どなたですか？」

「あ・た・し！」

インターフォンからハイテンションな声が聞こえる。……てしが勅使河  
原ヒロミさんだ。いつもは苦手な勅使河原さんも、今日は救いの神  
に思えた。

「家賃の支払いですね」

僕は明るい声でそう言うと、ドアを開けた。

「ハイ！ ハレちゃん、お元気い〜？」

タイトなラメ入り黒いワンピースを着て、体をくねらせる勅使河  
原さん。勅使河原さんはとても色っぽい。静香さんよりずっと若く  
て綺麗だ。だけど……勅使河原さんは男だった。いわゆるニューハ  
ーフってやつ。

「今日はあたしのダーリンも連れて来ちゃった！」

「……ダーリン……？」

僕は勅使河原さんから家賃を受け取りながら、不吉な予感を覚え  
る。

「じ・つ・は、ハレちゃんもスゴクよく知ってる人なお」

「はい……？」

「ダーリン、カモ〜ン！」

勅使河原さんの後ろから、一人の男がスツと姿を現した。スラリとした長身。薄茶色の髪をオールバックにした、チヨイ悪オヤジ風な男。

「……………」

僕はその男を見て啞然とした。横溝さんには全く動じなかった僕も、目が点になった。開いた口が塞がらないってのは、こういう時に使うんだと実感した。

「ハレ！ 久しぶりだな、元気か？」

「父さん……………！ 何でここに！？」

その男は僕の父親だった。雨月レイニイ。単身赴任を理由にずーと家に帰って来なかった父さん。父さんの母親はアメリカ人で、父さんはハーフだ。その父さんが、ニューハーフの勅使河原さんとピッタリ体を寄り添わせている。

「何で勅使河原さんと……………？」

体の震えを押さえて、僕はようやくそれだけ口にした。

「ハレ！ お前には悪いが、母さんとの間にお前が出来たのは、あれは一時の気の迷い、過ちだった……………」

真顔で父さんが答える。

「父さんは、やはり女は愛せない。父さんは、今日ここで『カミングアウト』する！」

カ、カミングアウトだって！！ 何だ、それはー！ 僕の頭の中はクラクラ渦巻き、今にも倒れそうになった。

(後書き)

起承転結の転一、書き上げました！ マンションの住人達っていうぐらいだから、何人が登場させないと思っただけ、個性的な方々を登場させました。(^^;) それから、ハレの父親も。ハレ君はハーフの父親の子だから、クウォーターってことになります。書くのは楽しかったです。転を書くのは初めてだったんですが、上手く転がったでしょうか？ これから先が大変な気もしますが、^^、後はお二人にお任せします！

# 広告募集中

小説関連広告に最適です。  
出版社や印刷会社はもちろん、  
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7064c/>

---

はれんちマンション(転一)

2009年7月2日03時58分発行